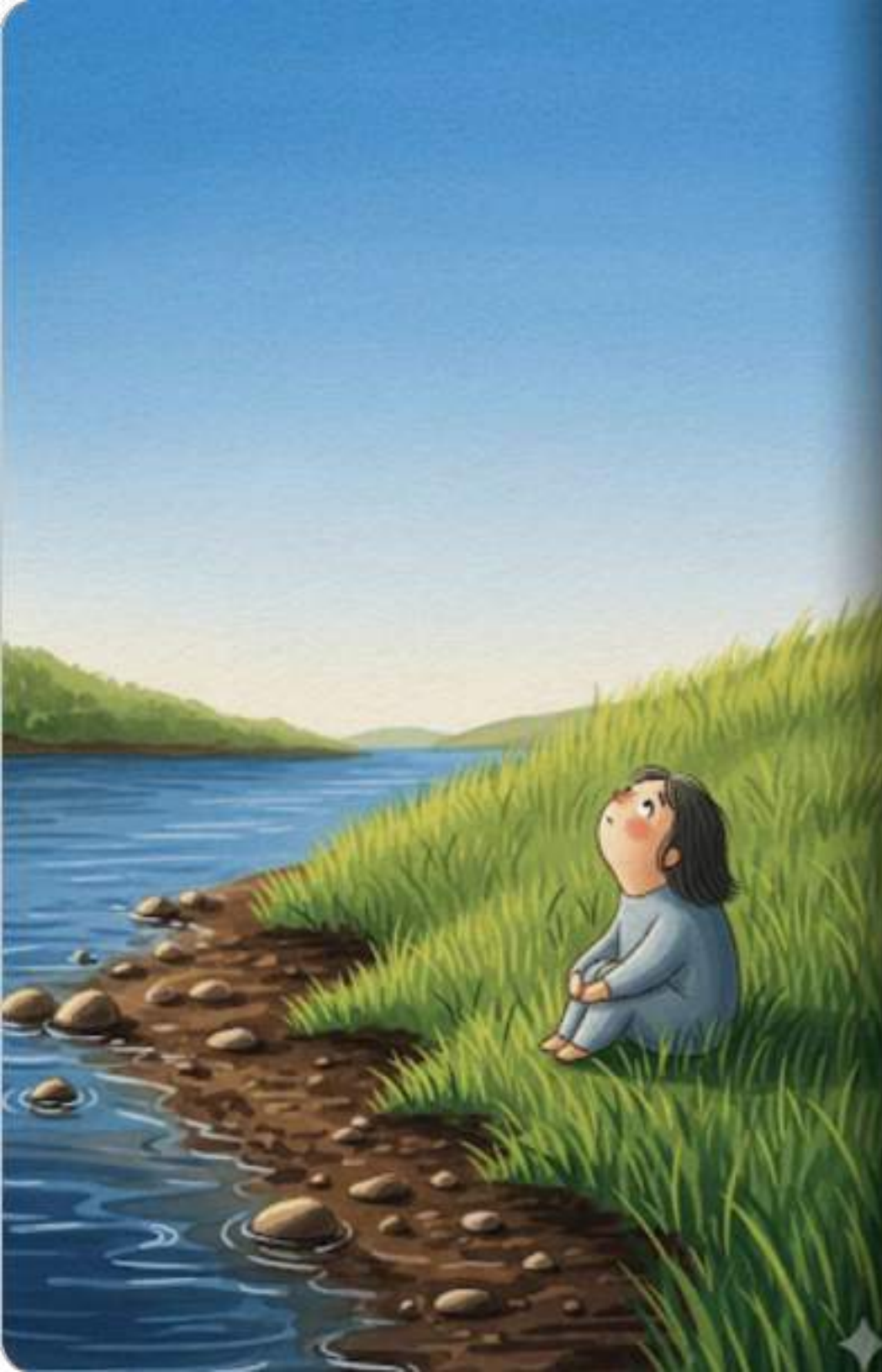




ちいさな石の、大きなかがやき

作成: 野沢きよみパレエスタジオ



川のほとりに、ちいさな石がありました。名前はリョウ。リョウは、いつも空を見上げて、ため息をついていました。



「ああ、ぼくも、あんな風に、
キラキラと輝きたいな」 リョウ
が憧れていたのは、夜空に浮か
ぶ、一番星でした。



ある夜、いつものように空を見
上げていると、ひとつの光が、
リョウの目の前にふわりと舞い
降りました。



「あなた、だれ？」リョウがたずねると、光は、そっと近づいてきました。それは、ちいさなホタルでした。ホタルの名前は、ホタル。



「どうしたの、リョウ？ なんだ
か、さみしそうだね」 ホタル
は、やさしい声で言いました。



リョウは、自分の夢を話しました。「ぼくは、星みたいに、みんなを照らす光になりたいんだ」



ホタルは、くすつと笑いまし
た。「リョウ、あなたは、もう、
みんなを照らしているわ」



「えっ？ ぼくが？」リョウは、
自分をじっと見つめましたが、
ただの、ごく普通の、ちいさな
石です。



リョウのちいさな体は、ホタルの光をうけて、水面に、大きな、銀色の光の粒となって輝いていました。ホタルと一緒に、リョウも、立派な「かがやき」になったのです。